令和７年度 岡山県文化振興審議会

日時：令和８年２月 12 日（木）
14 時～15 時 30 分
場所：ルネスホール　ワークルーム

１　開　会

２　議　事

・　令和７年度県実施主要事業について
・　おかやま文化振興ビジョン(2018-2028)2025 改訂版の進捗状況について
・　令和８年度重点事業について

３　その他

・　フリーディスカッション（文化芸術による地域づくり）

４　閉　会

岡山県文化振興審議会委員

任期：R6.4.1～R8.3.31

	氏　　名	役　　職　　名	
	大原　謙一郎	大原美術館名誉館長	
	加納　容子	勝山文化往来館ひしお副理事長	
	神﨑　宣武	民俗学者	欠席
	柴田　奈美	岡山県俳人協会会長	
副会長	竹内　京子	くらしき作陽大学教授音楽学部長	欠席
会長	谷一　尚	林原美術館館長	
	二階堂　裕子	ノートルダム清心女子大学文学部教授	
	松田　正己	山陽新聞社代表取締役会長	
	森山　知己	倉敷芸術科学大学客員教授	

敬称略　５０音順

岡山県文化振興審議会規則

平成十八年三月二十四日
岡山県規則第五十一号

(趣旨)

第一条　この規則は、岡山県附属機関条例(昭和二十七年岡山県条例第九十二号)第四条の規定により、岡山県文化振興審議会(以下「審議会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第二条　審議会は、次の事項を所掌する。

一　岡山県文化振興基本条例(平成十八年岡山県条例第十五号。以下「文化振興基本条例」という。)第八条の規定により知事から諮問された事項に関する調査審議及び意見の具申

二　その他文化振興基本条例の施行に関する意見の具申

(組織)

第三条　審議会は、委員二十名以内で組織する。

2　委員は、学識経験を有する者のうちから知事が任命する。

(委員の任期)

第四条　委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2　委員は、任期満了後であっても、新たに委員が任命されるまでは、その職務を行うものとする。

3　委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第五条　審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によってこれを定める。

2　会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第六条　審議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

2　審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない。

3　審議会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(専門部会)

第七条　審議会は、その所掌事項の一部を分掌させるため、専門部会を置くことができる。

(委員以外の者の意見の陳述)

第八条　会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に審議会の会議に出席して意見を述べさせ、又は説明させることができる。

(庶務)

第九条　審議会の庶務は、環境文化部文化振興課において処理する。

(その他)

第十条　この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が審議会に諮って定める。

附　則

この規則は、平成十八年四月一日から施行する。

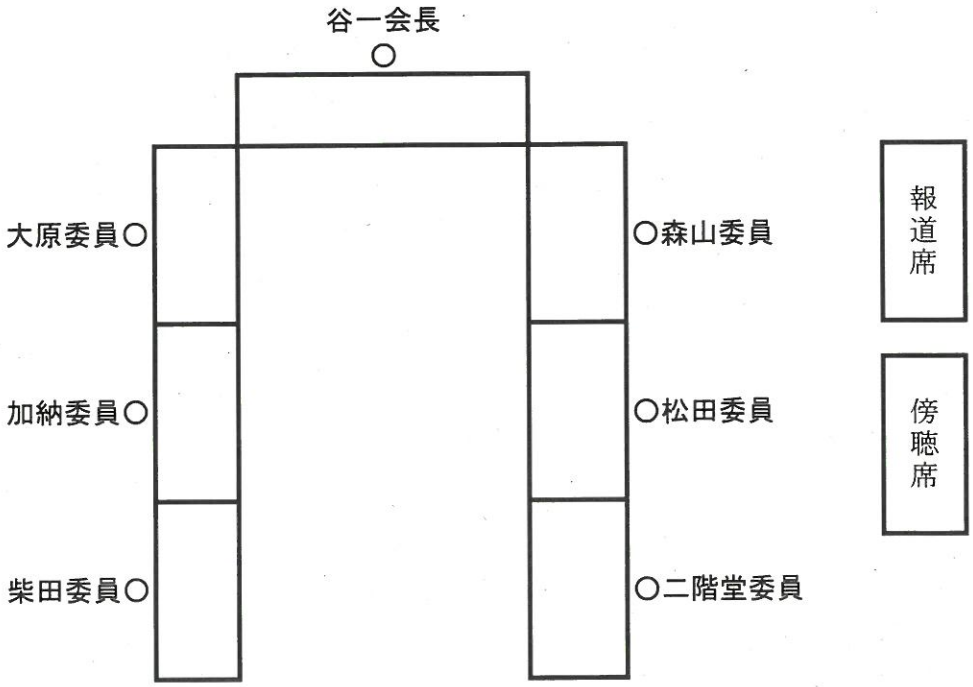
附　則(平成二二年規則第二七号)抄

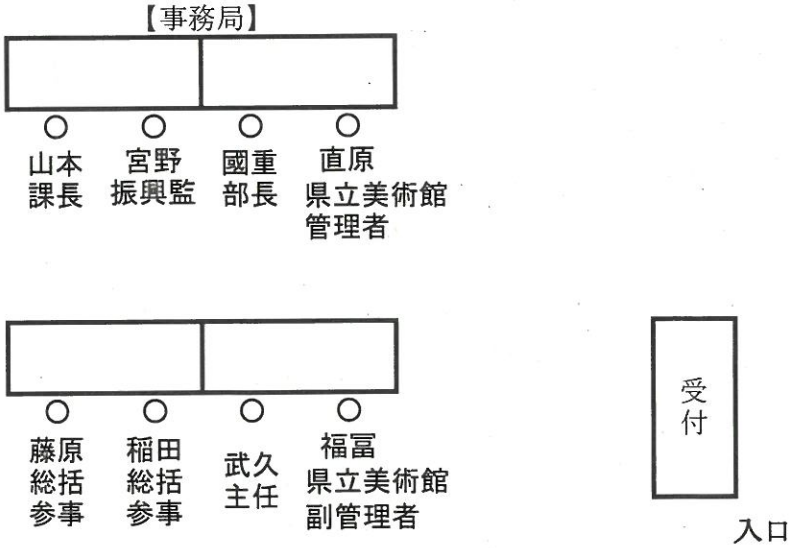
(施行期日)

1　この規則は、平成二十二年四月一日から施行する。

令和７年度　岡山県文化振興審議会　配席図

日時：令和８年２月12日（木）
14:00～15:30
場所：ルネスホール　ワークルーム





令和７年度　岡山県文化振興審議会

配　付　資　料

日時　令和８(2026)年２月12日（木）
14時～15時30分
場所　ルネスホール　ワークルーム

１　令和７年度県実施主要事業

（１）美作三湯芸術温度2025 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

（２）岡山芸術交流2025の開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（３）アートプロジェクトおかやま推進事業

①　文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業 ・・・・・・・・・・・・・ 9

②　アートマネジメント人材育成、地域課題解決支援事業 ・・・・・・・・・・・ 11

③　オーケストラ鑑賞機会の提供 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

（４）おかやま文化芸術アソシエイツ事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

（５）学校部活動の地域連携、地域展開 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

（６）県立美術館事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

２　おかやま文化振興ビジョン（2018-2028）2025改定版の進捗状況 ・・・・ 26

３　令和８年度重点事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 別添１

美作三湯芸術温度２０２５

事業の趣旨・目的	西日本有数の温泉地である美作三湯（湯原、奥津、湯郷温泉）の温泉宿などに県内外の気鋭のアーティストを招き、その作品の制作や展示を通して、この場所でしか味わうことができない、温泉地での新しい文化価値の創造と発信を行う回遊型アートイベント。アーティストたちの感性や創造力と美作三湯地域の歴史や文化とがシンクロしていくことで、三湯の持つ奥深い魅力の世界へと訪れる人を誘い、地域や人との出会いや交流といった新たな関係の場が生まれる。平成28(2016)年から３年に１回開催しており、今回が４回目となる。
事業概要	**１　開催実績** **（１）主催** 岡山県 **（２）キュレーター** 岸本和明 氏（奈義町現代美術館館長） **（３）会期** 令和７(2025)年８月２９日（金）～１２月７日（日）【１０１日間】 **（４）開催場所** 美作三湯の宿泊施設及びその周辺施設　２７か所 **（５）参加アーティスト数** ３１名 **（６）来場者数** １３万８千人（前回比１１１％） **【参考】前回の開催実績（令和４(2022)年）** （１）会期 令和４年８月２７日（土）～令和４年１２月４日（日）【１００日間】 （２）開催場所 美作三湯の宿泊施設及びその周辺施設　２５か所 （３）参加アーティスト数 ２６名 （４）来場者数 １２万４千人 **２　主な取組** （１）過去最多の２７施設、３１名のアーティストが参加 （２）アーティストユニットでの参加や２人以上のアーティストが展示する施設の増加 （３）インスタグラムによる展示作品やイベントの定期的な情報発信 （４）参加アーティストと来場者が交流できるイベントの実施 ・参加アーティストによるワークショップ １１月　３日（月・祝）ホテル湯の杜美春閣（湯郷）参加者７名 １１月１６日（日）湯原ふれあいセンター（湯原）参加者２９名 ・参加アーティストによるアーティストトーク １１月　３日（月・祝）ホテル湯の杜美春閣（湯郷）参加者約１０名 １１月１６日（日）プチホテルゆばらリゾート(湯原)　参加者５名 １２月　６日（土）池田屋河鹿園（奥津）参加者約２０名 **３　来場者の動向** 来場者の動向の把握するため、会期中にウェブアンケートを実施した。 （Ｐ４「美作三湯芸術温度２０２５　来場者アンケート結果（抜粋）」参照） （１）対 象 者：美作三湯芸術温度２０２５の来場者 （２）実施方法：温泉地に設置したＱＲコード等からウェブ上で回答 （３）実施期間：令和７年８月２９日（金）～１２月１４日（日） （４）回 答 数：３４３

●実施の様子

作品展示

湯原温泉（12 施設・14 アーティスト）

『Life in the Fall』 高本敦基(湯原国際観光ホテル菊之湯)

『ピンポンパン』 原倫太郎＋原游(ゆばらの宿　米屋)

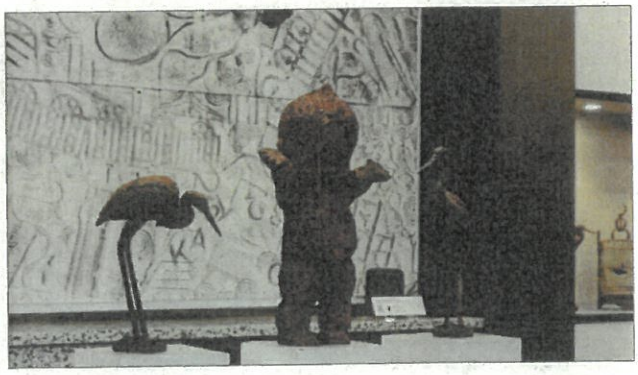
奥津温泉（５施設・９アーティスト）

『水の記憶　3』 森山知己(名泉鍵湯 奥津荘)

『祈りの鳥』 藤沢まゆ(花美人の里)

湯郷温泉（10 施設・11 アーティスト）

『外では静かに雨が』 藤原裕策(ふくます亭)



『41 世紀の湯郷温泉ミュージアム』 柴川敏之(和モダンなお宿かつらぎ)

イベント

高本敦基ワークショップ

「洗濯バサミでつくろう/日常品から世界を読み解くワークショップ」

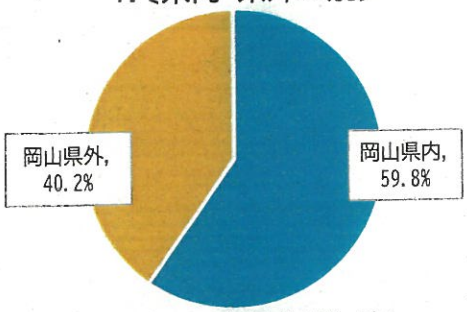
アーティストトーク@池田屋河鹿園

「作品制作と奥津の自然美」

美作三湯芸術温度2025 来場者アンケート結果(抜粋)

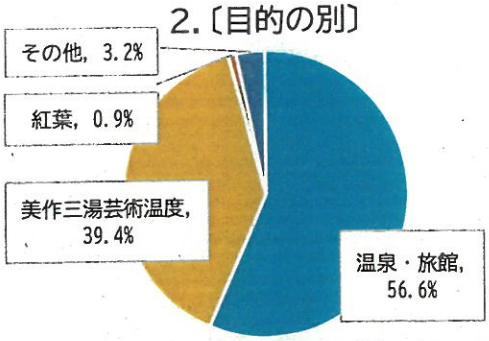
【N=343】

1.〔県内・県外の別〕



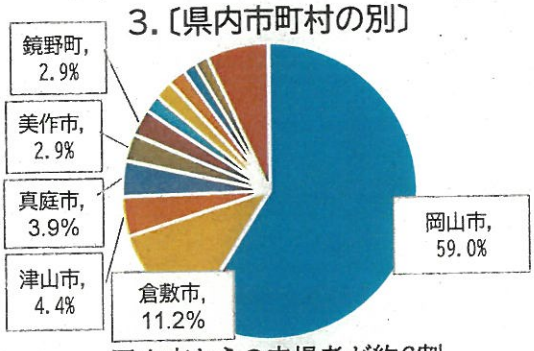
県内からの来場者が約6割。

2.〔目的の別〕



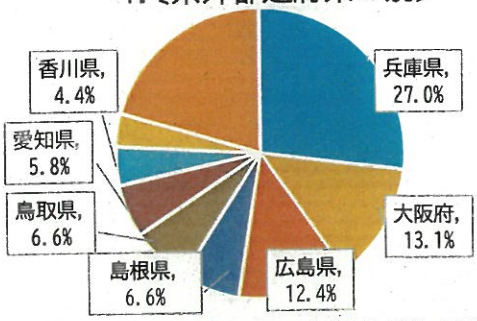
芸術温度目的の来場者が約4割。

3.〔県内市町村の別〕



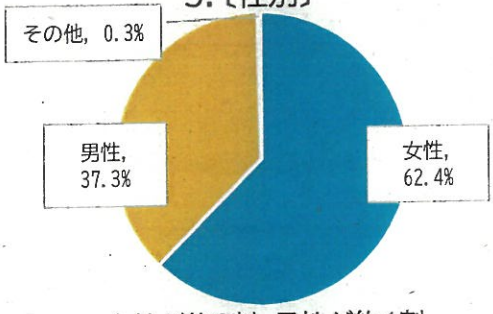
岡山市からの来場者が約6割。

4.〔県外都道府県の別〕



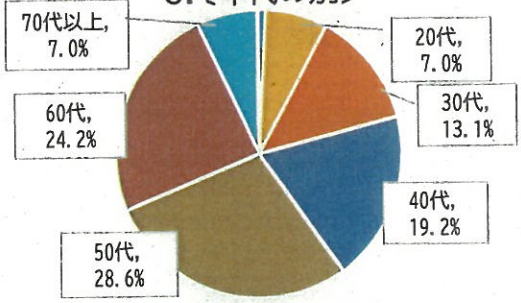
兵庫県、大阪府からの来場者が約4割。

5.〔性別〕



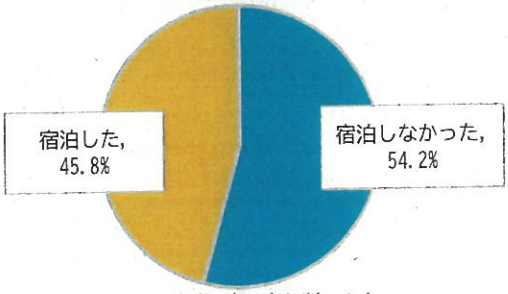
女性が約6割、男性が約4割。

6.〔年代の別〕



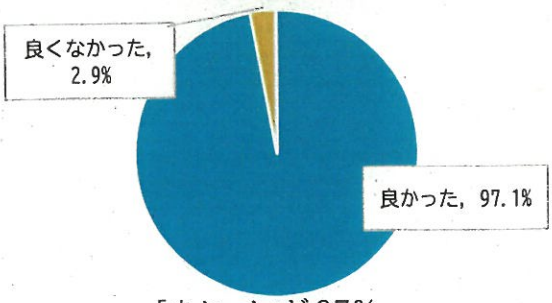
来場者が幅広い年代層に分布。

7.〔宿泊の別〕



日帰りの来場者が半数以上。

8.〔芸術温度の評価〕



「良かった」が97%。

＜主な特徴＞

1. 〔県内・県外の別〕では、県内からの来場者の割合が増加（50.6%→59.8%）、
2. 〔目的の別〕では、美作三湯芸術温度目的の割合が増加（24.7%→39.4%）

＜来場者増の要因＞

- ４回目を迎え、芸術温度の県内認知度が高まっている
- 昨年度の「森の芸術祭」開催等を通じ、県内のアートイベントへの機運が高まっている

事業の評価

自己評価	４回目の開催で、地域の方々にも美作三湯芸術温度が定着してきており、キュレーター、参加アーティスト、温泉地域関係者が一体となりイベントを盛り上げることができた。アンケートでは、来場者の約４割が芸術温度を目的に来場したと回答するなど、作品鑑賞目的で美作三湯を訪れる方が回を重ねるにつれて増加している。 また、会期中に、各温泉地の展示会場でワークショップやアーティストトークといった、来場者とアーティストが交流できるイベントを企画するなど、来場者の満足度向上に努めることができた。
今後の課題	アンケート結果などから、美作三湯芸術温度の県内での認知度は高まっているが、県外からの宿泊者等への更なるＰＲが課題となっており、今後も県北地域の温泉地を舞台としたアートイベントとしてさらに定着するようキュレーター等と連携し取組を進めていく。

岡山芸術交流２０２５

事業の趣旨・目的	瀬戸内国際芸術祭の秋会期に合わせ開催することで、国内外からの誘客の相乗効果を図るとともに、県内各地で実施されるアートイベントとの連携など、県内全体で開催の効果が実感できる取組を行う。 また、県内小中学校・特別支援学校の校外学習による鑑賞を支援し、世界で活躍するアーティストの作品を生で鑑賞する機会を提供する。
事業概要	**1　主催** 岡山芸術交流実行委員会 会　長　大森雅夫（岡山市長） 副会長　笠原和男（岡山県副知事）、松田久（岡山商工会議所会頭） 総合プロデューサー　石川康晴（公益財団法人石川文化振興財団理事長） 総合ディレクター　那須太郎（TARO NASU代表／ギャラリスト） アーティスティック・ディレクター　フィリップ・パレーノ（アーティスト） パブリックプログラム・ディレクター　木ノ下智恵子（大阪大学21世紀懐徳堂准教授） アーティスティック・トランスレーター　島袋道浩（アーティスト） **2　タイトル** The Parks of Aomame　青豆の公園 **3　会期** 2025年9月26 日（金）～ 同11月24 日（月・休）　開館日は計52 日間 **4　会場** 旧内山下小学校（校庭・プール）、岡山県天神山文化プラザ 岡山市立オリエント美術館（入口前）、岡山神社、表町商店街、城下地下広場　ほか **5　鑑賞料** 今回に限り無料 **6　作品展示等** **参加ゲスト**：１１か国 ３０ 組　　作品数：３０作品 **7　来場者数** ４２４，９１７ 人【過去最大】 **8　主なプログラム・イベント** **（１）学校連携** 県内小中学校・特別支援学校等９１校 約５，８００人の児童・生徒が校外学習や部活動等で来場し、来場学校に対話型鑑賞等の鑑賞支援を実施した。 また、県内小中学校等でアート鑑賞を楽しむための出前授業や教職員向け研修を実施した。 **（２）パブリックプログラム** 「岡山芸術交流」が地域に開かれ、根ざし、持続・発展することを目的に、岡山市内の人・場所・文化資産の3つのポテンシャルを活かした様々な企画を実施した。 ①岡山芸術交流の基盤整備に関するシンボルイベント サポートスタッフなど様々な立場で岡山芸術交流に携わった方々と芸術交流について語り合うとともに、ゲストと各地の国際展・芸術祭の課題や可能性について考察するクロージングイベントを開催した。 ②本展テーマ・アーティスト・作品の拡張プログラム ・ジャーナルプロジェクト 学生グループが岡山芸術交流2025を取材し、それぞれの視点でとりまとめた新聞を表町商店街に掲示し、岡山芸術交流の魅力を発信した。 ・公募事業 岡山芸術交流に親しんでもらい、一緒に盛り上げていくための公募事業４事業を採択し、様々なプログラムを展開した。 ・子ども向け動画　「岡山芸術交流ってなに？アートってなに？」 現代アートを分かりやすく伝え、親しみを持ってもらうため、現代アートの見方を紹介する動画を作成した。 ③鑑賞支援（幅広い層の方々にアートの楽しみ方を知ってもらい、作品への理解を深めてもらうための鑑賞ツアーを実施） ・「みる×対話」アートツアー ・子どもナビと楽しむアートツアー **（３）アーティスティック・トランスレータープログラム** 今回の芸術交流で新設されたプログラム。アーティストならではの新しい視点で、現代アートにあまり触れることのなかった市民・県民が興味を持ち参加したくなるようなプログラムを実施した。

主な展示作品

ジェームズ・チンランド《レインボーバスライン》2025年
Courtesy of the artist
©2025 岡山芸術交流実行委員会
撮影：市川靖史

左：フィリップ・パレーノ《メンブレン》2024年
右：藤本壮介《オープンサークル》2025年

ライアン・ガンダー《The Find（発見）》2023年
Courtesy of the artist
©2025 岡山芸術交流実行委員会
撮影：市川靖史
本作はファクトリー・インターナショナルがマンチェスター・インターナショナル・フェスティバルのために制作を委嘱した作品です。

アルカ《トランスフィクション》2025年

学校連携

学校鑑賞

出前講座

対話型鑑賞

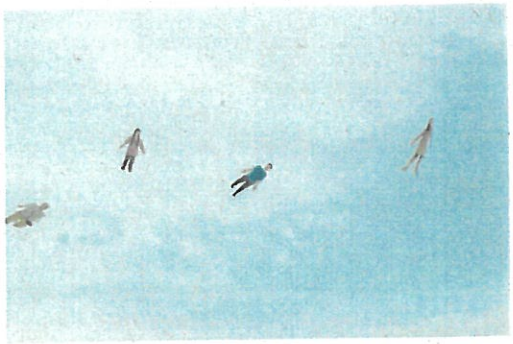
パブリックプログラム

子どもナビと楽しむアートツアー

ジャーナルプロジェクト

クロージングイベント ラウンドテーブル(11/24)
登壇者：浅田彰、小崎哲哉、那須太郎
司　会：木ノ下智恵子
場　所：蔭涼寺(岡山市)
参加者：59名

アーティスティック・トランスレータープログラム



「飛ぶ人たち」(5/11・5/25)
企　画：島袋道浩
場　所：旭川河川敷（北区京橋町）
参加者：延べ100人（同行者含む）

事業の評価

自己評価	鑑賞料無料としたこともあり、来場者は過去最大の424,917人となった。 また、これまで現代アートにあまり関心がなかった人々を呼び込むことを目的として新設されたアーティスティック・トタンスレータープログラムにより、現代アートに馴染みがなかった方々の来場を促すことにも効果があったと推察される。 一方で、小中学校等の学校鑑賞については、子ども向け動画作成等で広報に務めたが、91校、約5,800人となり、過去最大となった前回の104校、7,255人からは減少した。
今後の課題	実行委員会で実施する事業であり、現時点では次回の開催は未定。

文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業

事業の趣旨・目的	地域の文化芸術団体や住民等と連携・協働しながら、国内外のアーティストを起用し、地域の伝統芸能、歴史的建造物等の文化資源や文化施設等を活用したイベント等を実施することで地域のにぎわい創出や地域住民へ文化芸術に触れる機会を提供する。 また、取組の中に、子どもや若者を対象としたイベント等を盛り込むことで、子どもや若者が身近な地域で、文化芸術に触れる機会を創出する。
事業概要	**１　高山夏希展「モノたちの記憶、あかくなる結節点」** **（１）実施団体**　ＥＫＧ合同会社 **（２）参加アーティスト（１名）** 高山夏希（絵画・彫刻） **（３）参加者数**　５１６人 **（４）概要** 地域の家屋に眠る古物を地域住民との交流を通じて収集し、新たな作品として蘇らせるプロジェクトのほか、アーティストとのギャラリートークやワークショップを実施した。 実施時期：令和７年１０月～１２月 会　　場：ＰＯＲＴ ＡＲＴ&ＤＥＳＩＧＮ ＴＳＵＹＡＭＡ、津山高校　ほか **２　せとうち猫めぐり－花房さくら木彫展関連事業－** **（１）実施団体**　瀬戸内市立美術館 **（２）参加アーティスト（１名）** 花房さくら（木彫・イラスト） **（３）参加者数**　１８，８９７人 **（４）概要** 瀬戸内市立美術館開館１５周年記念特別展の開催にあわせて、地域の学校、瀬戸内市観光協会等と連携し、アーティストとのワークショップやトークイベントの開催、作品に加え市内観光地を紹介する図録撮影などの事業を展開した。 実施時期：令和７年６月～８月 会　　場：瀬戸内市立美術館、ウシマドテレモーク　ほか

事業概要	**３　松島分校美術館 A.I.R プロジェクト** **「境界のポリフォニー　～瀬戸内海との対話～」** **（１）実施団体**　一般社団法人松島分校美術館 **（２）参加アーティスト（２名）** 中桐聡美（版画） Chiaki Y.Lhaden（現代アート） **（３）参加者数**　未確定 **（４）概要** ２名のアーティストを瀬戸内の離島に浮かぶ松島分校美術館に招待し、滞在制作と様々な地域連携プログラムを実施した。 実施時期：令和７年８月～令和８年２月 会　　場：松島分校美術館、倉敷市立緑丘小学校　ほか

事業の評価

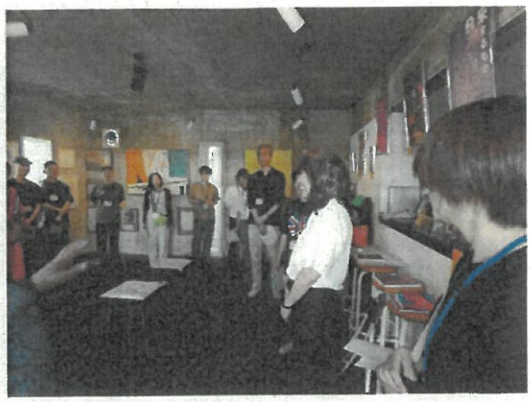
自己評価	昨年度までの「おかやまＡＩＲ地域協働事業」と「次世代おかやまアーティスト活動促進事業」を統合し、事業内容の自由度を高めたことから、多くの事業提案をいただき、ユニークな事業を採択・実施することができた。 また、ワークショップやトークイベントを行うことで、子どもや若者をはじめ、地域住民が身近な地域で文化芸術に触れる機会を提供できた。
今後の課題	引き続き多くの事業提案をいただけるよう、事業募集の際の周知を一層図るとともに、取組の成果等を県内の文化団体等に還元することでよりよい事業提案につなげていく。

アートマネジメント人材育成・地域課題解決支援事業
「アートで地域づくり実践講座」の開催状況

事業の趣旨・目的	アートイベントに必要となる企画力や広報技術等を習得できる通年の講座を開講し、岡山の文化芸術や地域資源を活かしアートイベントの企画・運営を行うことのできるアートマネジメント人材を育成する。
フィールドワーク場所	備前市
事業概要	**1　講師** 北島 琢也（(株)KAMP代表取締役） 岸本 和明（奈義町現代美術館館長） スミカオリ（ヨノナカ実習室 実習助手　ほか） **2　講座受講申込者数**　１５名 **3　講座修了者数**　１１名 **4　講座の開催（６月７日～１月２４日）　全１４回＋実証イベント** 企画の進め方や実際のアートイベントの運営、イベントの広報戦略、効果的な広報物の作成方法などを講座講師、外部講師から学ぶ座学講座に加え、地域の資源や歴史・文化を生かしながら、受講生自らが企画・準備から開催・運営までを実際に経験する文化イベント（実証イベント）を行った。 イベント終了後は、振り返りを行い、講座で学んで知識や経験を基に実際にイベントの企画書の作成を行った。 **5　実証イベントの開催（１１月２９日～３０日）** 講座の集大成として、受講生自らが企画・準備・開催・運営までを行う実証イベントを開催した。 ・イベント名：ひとひと ～あなたにとっての炎は何ですか？～ ・開催場所：大池緑地公園（備前市吉永町南方1373-1） 焚き火カフェ（備前市吉永町南方1403-7） ・プログラム：２名のアーティストによる作品展示、ワークショップ、アーティストトーク ２組のアーティストによる音楽パフォーマンス 焚き火を囲む対話の場 ２団体によるミニマルシェ ・概要：タイトルの「ひとひと」には、イベントのテーマである“炎”、“人と人がつながる”という意味が込められており、火をイメージしたアートで備前の魅力を表現し、心あたたまる交流の場をつくった。 ・来場者数：220人 **6　講座修了生の活動促進** １月に、助成金獲得を目指した実践的な企画立案の講座を行い、活動の促進を図った。

講座（座学、グループワーク、フィールドワーク） 6月7日～1月24日　全14回

コンセプトについての講義



フィールドワーク（ホワイトノイズ）

グループワーク

実証イベントに向けた作業

実証イベント　11月29日～30日

作品展示（森大雅）

ワークショップ（森大雅）

実証イベント　11月29日～30日

作品展示（田計珠実）

アーティストトーク

音楽パフォーマンス（Takkiduda）

音楽パフォーマンス
（STARSEED WANDERER あさこ＆ちかこ）

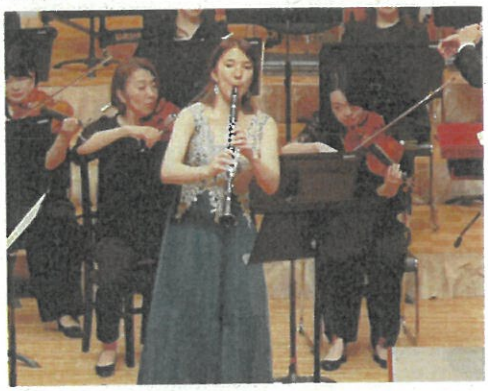
焚き火を囲む対話の場

ミニマルシェ（瀬戸乃）

事業の評価

自己評価	アートイベント等に関心の高い県民を対象とする講座を開催地自治体と協働して実施し、座学、グループワーク、フィールドワーク等を通じ、人材の育成に取り組んだ。イベント経験がない受講生も多く当初は消極的な姿勢も見受けられたが、講師のフォローや受講生同士の話し合いを重ねることで、主体的に考え、取り組むものにできた。 また、実証イベントの実施に当たっては、備前市、地元住民、地元企業、アート関係者等様々な主体に協力をいただきながら、受講生が自ら主体的に動き多くの経験を積むことができた。
今後の課題	講座の実施に当たっては、これまでの経験を生かしながら、受講生がより多くの学びを得られるよう内容のブラッシュアップを図るとともに、辞退者を減らす取組を行い、アートの力を活用した地域づくりを行うことのできる人材をさらに増加させていく必要がある。

オーケストラの鑑賞機会の提供

事業の趣旨・目的	県内の様々な地域において、岡山フィルハーモニック管弦楽団によるオーケストラ公演を実施し、質の高い芸術鑑賞の機会を提供する。
事業概要	**【令和７年度実績】** **○真庭特別公演** **日　　時**：令和７年７月27日（日） 午前の部　11：30開演 午後の部　14：00開演 **場　　所**：エスパスホール（真庭市鍋屋１７－１） **出　　演**：指揮／出口　大地 クラリネット／西﨑　智子 **曲　　目**：ベートーヴェン／交響曲第５番「運命」第１楽章 モーツァルト／クラリネット協奏曲　第１楽章 プロコフィエフ／「ピーターと狼」ナレーション付き ドヴォルザーク／交響曲第９番「新世界より」第４楽章 **入 場 料**：一般 2,000円、ユース（１９歳以下） 1,000円 **入場者数**：420名（午前の部185人、午後の部235人） 

事業の評価

自己評価	令和元年度から開催している本事業は、今年度で７年目を迎えた。 来場者数は、客席数（501席）に対して、午前の部が185人・午後の部が235人であった。 また、令和６年度から取組を始めた開催地在中の小中学生無料招待については、今回も実施し、午前の部は12人・午後の部は42人に来場いただいた。 本公演では来場者数に課題を残す結果となったため、今後はより多くの方々にご来場いただけるよう、魅力的な公演内容の検討や、効果的な広報活動等に取り組みたい。
今後の課題	多くの方々に芸術鑑賞の機会を提供できるよう、魅力的な公演内容の検討や、効果的な広報活動等に取り組みたい。

おかやま文化芸術アソシエイツ事業

事業の趣旨・目標	(公社)岡山県文化連盟内に設置した「おかやま文化芸術アソシエイツ」の高い専門性を生かし、文化芸術に関する総合窓口として継続的に取り組むとともに、文化芸術団体の後継者育成、若年層をはじめとする県民が文化芸術活動に気軽に参加できる環境整備などに積極的に取り組む。

事業概要

1　専門人材の配置

【プログラム・コーディネーター　２名】
・金孝妍/アーティスト
・橋本誠/アートプロデューサー

【プログラム・オフィサー　１名（兼務）】
・高田佳奈/公益社団法人岡山県文化連盟事業統括、認定ファンドレイザー

【エグゼクティブ・アドバイザー　１名】
・大月ヒロ子/ミュージアム・エデュケーショナル・プランナー

【アドバイザリー　４名】
アドバイザー（非常勤）　杉浦幹男（クリエイティブ・ポート高松 プログラム・ディレクター）
アドバイザー（非常勤）　朝倉由希（文化政策研究者、公立小松大学准教授）
アドバイザー（非常勤）　斎藤　努（舞台制作者、プロデューサー）
アドバイザー（非常勤）　森山知己（日本画家、倉敷芸術科学大学客員教授）

2　主な事業・実績

（1）ポータルサイト「マイニングおかやま」
・県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース「文化・芸術・芸事名鑑」の充実に努めた。登録数322件（令和７年１２月現在）
・岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げるためのプラットフォーム「マイニングおかやま」を活用し、おかやま文化芸術活動相談窓口に寄せられた相談の中から、公益性が高く文化芸術の社会的価値を具現化するに相応しい事業をモデル事業として２件（令和７年１２月現在）採択した。

（主なコンテンツ）

コンテンツメニュー	内　　容
文化芸術 マイニングリレー	岡山県ゆかりの文化芸術関係者を、リレー形式のインタビューで紹介
クリエーション 再遊記（サイユウキ）	県内アーティストを中心とした作品展等のアーカイブ集
文化・芸術・ 芸事名鑑（ゲイゴト）	県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース

（モデル事業）
・子ども向けの演目を得意とする県内の劇団が、小中学校の芸術鑑賞会で上演することを目標に掲げ、まずは今年度、地域の公民館でのトライアル公演の実施にあたり、開催費用の一部を支援した。
・地域に伝わる重要無形民俗文化財の盆踊りを継承するために、保存会と連携し、国からも協力者を募りながら持ち寄りで盆踊りを実施しようとする次世代の取組を取材し、記録映像を作成した。

事業概要

（２）文化団体等の活動支援

文化団体等の活動に対する助言、支援を行った。

・文化団体等からの相談件数・・・・・・・27件
（令和７年４月１日～令和７年１２月３１日現在）

＜主な相談内容＞

・地域アーツカウンシル設置の先進県としての視察
・広告代理店から、鑑賞ガイドアプリの改善点や県内文化施設への導入可能性についてヒアリング
・倉敷市が実施する文化イベント（プロポーザル方式で実施）で、県外企画会社からの子ども向けのワークショップができる講師の紹介依頼
・任意団体を作る際の会則等の作り方についての相談
・文化芸術等に関するワンストップ相談窓口「おかやま文化芸術活動相談窓口」の運営

（３）県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業

ア　おかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」

地域の文化芸術資源を活用し、新たな価値の再発見と楽しみ方を提案する「これがOKAYAMA!プログラム」について、金孝妍氏の企画・監修のもと、文化芸術アソシエイツが運営・実施した。

「古くて新しい、美作国のうつろい」をテーマに、伝統的に続いていることの今、古い場所の現時点、無形のものの継承の仕方の変化などに注目し、興味をそそぎ覗いてみないと見えづらいヒト・コト・場所に光を当てた。

また、県文祭ならではの特別ワークショップを企画実施した。

古くて新しい、美作国のうつろい

〇ワークショップ　2件

・「映画を聴こう！映画を鳴らそう！」（11/1）
　場所：ビクトリィシアター（真庭市）
　講師：江南泰佐（大阪音楽大学特任准教授）
・「フィルムカメラで撮って感じる“うつろいの時間”」（11/29）
　場所：作州民芸館（津山市）
　講師：杉浦慶侘（写真作家）

〇紹介コンテンツ　3件

・江戸時代から続く農村歌舞伎を見てみよう！
　粟井春日歌舞伎（10/11）
　広野子ども歌舞伎教室第３回公演（11/1）
・紙の宝石「書票」を知っていますか？
　彩～いろとりどりの書票展～（9/10～10/20）
　「紙の宝石」デザイン募集作品展示＆一般投票
　（9/10～11/9　投票結果発表：12/17）

【古くて新しい、美作国のうつろい】
広報用キービジュアル

イ「文化芸術交流実験室」（トークセッション＆ワークショップ）

文化の各分野はもとより、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流を通じて文化資源を掘り起こすとともに、県内の人材や文化資源の横断的な出会いの場を創出する「文化交流実験室」を開催した。

平成２９年度～令和７年度で５２回の実験室を開催し、県内各地で様々な分野を横断する交流を通じて、新たな文化資源を発掘してきた。

対面での実験室開催が難しかったコロナ禍にYouTubeを利用したオンラインコンテンツ「訪問実験室」シリーズを開始し、現在までに９コンテンツを制作。令和７年１２月時点で合計５，３１１回視聴されている。

事業概要

（講師敬称略）

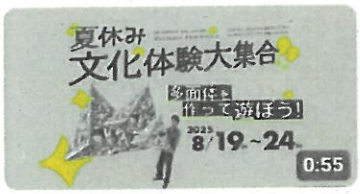
実験室50
YouTube配信コンテンツ
訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場⑧
「The 民藝～伝統を受け継ぐイ草のいかごづくり～」
協　力：須浪亨商店五代目　須浪隆貴氏
素　材：いかごの製作の様子や道具、作品などを通じて、伝統的な技法を守りつつ、現代の需要に合わせて少しずつ変化し続ける民藝の魅力に迫る。

実験室51
9/6「言葉の現在地―句と物語の間から見える世界―」
講　師：岡崎隼人氏（小説家）
　　キムチャンヒ氏（俳誌『100年俳句計画』編集長）
場　所：岡山県天神山文化プラザ
参加者：２０名

実験室52
YouTube配信コンテンツ
訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場⑨
「わたしたちの“つなぎかた”～勝山・千代萬歳豊稔踊のいま」
協　力：勝山千代萬歳豊稔踊保存会、勝山おどりましょう会
素　材：真庭市勝山に伝わる盆踊り「千代萬歳豊稔踊（ちよまんざいほうねんおどり）」を継承し、伝統を守りつつ、新たな試みで祭りを継続させようと取り組む次世代の挑戦を紹介。

ウ　公式YouTubeチャンネルーおかやまカルチャー・ヴィ

「楽しいが見える！」をコンセプトに、文化連盟会員が作成する様々な動画コンテンツや、県内で文化芸術活動を行う方が自ずから撮影した動画を配信するYouTube公式チャンネル。
現在までに５７本の動画を公開し、県内の様々な文化芸術活動の様子を伝えている。
配信は不定期だが、文化芸術交流実験室も一部配信で実施するなど、おかやまの文化芸術の“楽しい”を紹介するとともに、デジタルアーカイブの役割も担う。



夏休み文化体験大集合！多面体を作って遊ぼう！
15 回視聴・1 か月前

訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.8「The民...
251 回視聴・8 か月前

訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場 vol.7「支え合...
493 回視聴・1 年前

（４）文化活動に係る研究会、勉強会等

・「アートマネジメント研修」

地域文化に関する専門職を養成することを念頭に、文化・芸術団体を中から支える職員の育成と意識向上を目的にしているが、オンライン配信と併用することで、一般で興味関心のある層にも広く参加の機会を提供している。オンライン配信後はYouTubeでアーカイブ公開しており、現在までの総視聴回数は１，０８５回にのぼる。

令和７年度アートマネジメント研修：3月19日開催（予定）

事業概要

（５）子どもたちに文化芸術の体験機会を提供する事業　（講師敬称略）

ア 夏休み文化体験大集合！！

次世代を担う子どもたちに文化芸術の魅力や創造する楽しさを体験してもらうため、夏休みの期間に、地域で活躍するアーティストを講師に迎え、岡山県天神山文化プラザを会場として子どもたちを対象とした多彩な文化芸術講座を開催した。

8/2 切って、貼って、はめ込んで！
寄木象嵌のミニトレイを作ろう！
講　師：川﨑　正博
参加者：２７名

8/6,8,9 夏休みの宿題対策！
作文の基本の「き」
講　師：北川　久美子
参加者：１０３名

8/19～24 多面体を作って遊ぼう！
講　師：向井　宏志
参加者：２８７名
(8/24ワークショップ参加者：20名)

8/27 まるで魔法！初めてでも、誰でもたたける！
和太鼓 たたこう！
講　師：田中　みずほ
参加者：３７名

イ マテリアルライブラリー@天プラ

・ワークショップ「すてきな廃材はどこからくるの？」(12/13, 14)

廃材をリサーチ・収集・分類・整理するまでを段階的に体験するワークショップを開催した。

廃材のリサーチ・収集は岡山市表町商店街等の店舗の協力により実施した。

講師：大月ヒロ子氏　　参加者：２８人（２日間の延人数）

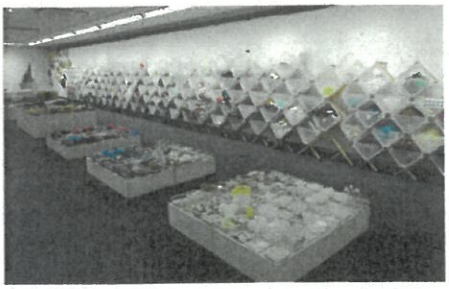
・マテリアルライブラリー@天プラ (R8. 1/7～11)

収集した廃材を分類・整理・ストックするマテリアルライブラリーを開催した。

参加者：３４７人

【 ワークショップ 】

【 マテリアルライブラリー 】



事業概要	その他 1）各種助成金、補助金の審査、選考 ・おかやま県民文化祭共催事業文化パワーアップアクション助成の選考 ・県が実施する「文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業」の選考 ・公益財団法人福武教育文化振興財団の「教育文化活動助成」の審査 ・公益財団法人真庭エスパス文化振興財団の「エスパス芸術文化助成」（真庭市）の審査 2）講師、講演等 ・「アートで地域づくり実践講座」（県事業）での講義（２回） 3）全国アーツカウンシル・ネットワークミーティング ・令和４年度から３年間幹事団体 ・第１回　８/２１（木）@長野県上田市 ・第２回　１２/５（金）@Ｚoom ・第３回　１/３０（金）@沖縄県那覇市

事業の評価

自己評価	文化芸術等に関するワンストップ相談窓口を通じ、文化団体等からの相談に積極的に応じるなど、文化団体等の活動への支援を行った。 相談件数は減っているが、最近では相談の内容が多様化・複雑化しており、より時間をかけた丁寧な対応が必要となっている。さらには、相談対応だけにはとどまらない、コーディネートが必要な業務も増えており、おかやま文化芸術アソシエイツの役割は増している。 おかやま県民文化祭や文化芸術交流実験室、アートマネジメント研修なども予定どおり開催することができ、県民が文化芸術に気軽に参加できる環境整備の充実を図るとともに、県内芸術家と県民・地域とのネットワークづくりに努めた。 部活動の地域展開を見据え、公立中学校の吹奏楽部へ講師を派遣した。
今後の課題	人口減少が加速度的に進む中、文化芸術の担い手を確保・育成していくため、文化芸術分野のみならず、多様な分野との連携・協働による取組を進めていく必要がある。 部活動の地域展開の指導者の更なる掘り起こしのためには、「マイニングおかやま」の認知度を高める必要があることから、引き続き、市町村や文化団体に周知を図っていく。

学校部活動の地域連携・地域展開

事業の趣旨･目的	少子化の進行に伴い、子どもたちのスポーツ・文化芸術活動の機会を学校主体の取組から、地域主体の取組へ移行していくため、地域の持続可能で多様なスポーツ・文化芸術活動の環境を整備する。今年度、県では、市町村や関係団体等との連絡会の開催や、スポーツ・文化芸術指導者の資質向上に向けた研修会を実施した。
事業概要	**【令和７年度実績】** **１　「地域クラブ活動環境整備事業」連絡会の開催** 学校部活動の地域展開について、県内市町村や関係団体と情報交換を図るとともに、本県の取組等を共有するため、令和７年６月と１１月に市町村担当者、スポーツ・文化芸術団体関係者、地域クラブ関係者を対象とした連絡会をスポーツ振興課と開催した。 **２　地域クラブ活動整備状況調査** 県内市町村や関係団体等を通じ、競技や文化芸術活動の指導経験や指導者資格を持つ方に限らず、経験者等、今後指導者となり得る人材を含め、調査・把握を行った。取りまとめた地域クラブ情報については、「おかやまスポーツナビ」で広く周知を行った。 **３　指導者研修会の開催** スポーツ・文化芸術指導経験者を対象とした研修会を８月に１回、指導初心者・未経験者を対象とした研修会を１１月から１２月にかけて県内各地域で計３回実施し、指導者の資質向上を図った。 **４　人材バンク「マイニングおかやま」** 県文化連盟が運営している「マイニングおかやま」のうち、人材データベース「文化・芸術・芸事名鑑」について、地域クラブ活動の指導が可能な人材を紹介している。 登録者数２６９件（令和７年１０月時点） **【国の動向】** 文部科学省は、令和８年度から令和13年度までの６年間を新たに「改革実行期間」と位置づけ、地域クラブの在り方や認定制度、地域展開の円滑な推進に当たっての対応等について取りまとめた「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」を令和７年12月に制定した（**別添資料のとおり**）。

事業の評価

自己評価	スポーツ振興課と共催で指導者研修会を実施するなど、地域クラブ活動の環境整備を進めることができた。また、合同連絡会の開催により県内市町村と情報共有を行うことができた。
今後の課題	部活動の地域展開が円滑に進むよう、国のガイドライン等に基づき、スポーツ振興課、県教育委員会と連携し、県ガイドラインの策定を進めているところであり（**案は後日送付**）、今後、素案を公表し、市町村等に意見照会する予定である。 また、令和８年度以降には、更なる指導者の資質向上のため関係団体等と連携した研修会を開催するなど、国の「部活動の地域展開等推進事業」の補助金も活用しながら、県内の部活動の地域展開・地域文化クラブ活動の推進を図っていく。

「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」の概要（趣旨・全体構成）

令和８年度から新たに「改革実行期間」がスタートすることを踏まえ、将来にわたる生徒のスポーツ・文化芸術活動の機会の確保・充実等を図るため、**部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関して、国としての考え方を示すもの**

※公立中学校等が主な対象（「Ⅳ　学校部活動の在り方」については、国立・私立を含めた中学校及び高等学校等が対象）

Ⅰ　部活動改革の基本的な考え方・方向性

1　改革の理念
2　取組の類型・名称（地域展開・地域連携）
3　改革の方向性
（１）基本的方針
（２）改革期間及び取組方針（休日・平日）
（３）留意事項

Ⅱ　地域クラブ活動の在り方及び認定制度

1　地域クラブ活動の在り方
2　地域クラブ活動に関する認定制度　※詳細は別冊資料①を参照
（１）趣旨
（２）想定される認定の効果
（３）認定制度の概要（認定要件・認定手続等）
（４）認定されていない地域クラブ活動の取扱い

Ⅲ　地域展開の円滑な推進に当たっての対応

1　推進体制の整備
（１）地方公共団体における体制整備
（２）国・都道府県・市区町村等・地域クラブ活動の運営団体・実施主体の役割分担
（３）地域クラブ活動の運営団体・実施主体による生徒が所属する中学校等との連携
（４）関係団体等・大学・民間企業との連携
2　各種課題への対応
（１）運営団体・実施主体の整備等　（２）指導者の確保・育成
（３）活動場所の確保　（４）活動場所への移動手段の確保
（５）生徒の安全・安心の確保　（６）障害のある生徒の活動機会の確保
3　生徒のニーズの反映及び地域クラブ活動への参画促進等

Ⅳ　学校部活動の在り方

1　適切な運営のための体制整備
（１）学校部活動に関する方針の策定等　（２）指導・運営に係る体制の構築
2　適切な指導及び安全・安心の確保
（１）暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の根絶
（２）合理的かつ効率的・効果的な活動の推進
（３）競技ごとの指導手引きの普及・活用
3　適切な活動時間・休養日等の設定
4　生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備

Ⅴ　大会・コンクールの在り方

1　生徒の大会等の参加機会の確保
2　大会等への参加の引率や運営に係る体制の整備
（１）大会等への参加の引率　（２）大会等の運営への従事
3　生徒の大会等の安全確保
4　全国大会をはじめとする大会等の在り方

Ⅵ　関連する制度の在り方

1　教師等の兼職兼業
2　教師の人事における学校部活動の指導力の評価等
3　高等学校入学者選抜における学校部活動・地域クラブ活動の取扱い

別冊資料

①地域クラブ活動に関する認定制度（指導者登録制度を含む。）
②部活動の地域展開等に関する参考資料

1

「部活動改革及び地域クラブ活動の推進等に関する総合的なガイドライン」の概要（主な内容）

改革の理念等
- 急激な少子化が進む中でも、**将来にわたって生徒が継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実**
- 障害のある生徒や運動・文化芸術活動が苦手な生徒等を含め、**全ての生徒が希望に応じて多種多様な活動に参加できる環境を整備**
- 地域クラブ活動においては、**学校部活動が担ってきた教育的意義を継承・発展**させつつ、地域全体で支えることによる**新たな価値を創出**

改革期間
令和５年度～７年度「改革推進期間」 → 令和８年度～10年度「改革実行期間」（前期）｜【中間評価】｜令和11年度～13年度「改革実行期間」（後期）

取組方針
- **休日**：**改革実行期間内に、原則、全ての学校部活動において地域展開の実現**を目指す
  ※現時点で着手していない地方公共団体においても、**前期の間に確実に休日の地域展開等に着手**
  （中山間地域や離島等で地域展開が困難な場合には、当面、部活動指導員の配置等を推進）
- **平日**：**各種課題を解決しつつ、更なる改革を推進**（まずは、国において実現可能な活動の在り方等を検証）

※学校部活動をベースとした地域との連携など、**地域の実情等に応じた多様な改革を進めていくことが重要**

認定制度
競技力向上を主目的としたチーム・スクール等との区別や質の担保等のため、**国が示す要件等に基づき、市区町村等が地域クラブ活動の認定を行う仕組み**を構築
【呼称】「認定地域クラブ活動」　【想定される認定の効果】公的支援（財政支援、学校施設の優先利用等）、大会・コンクールへの円滑な参加等
【主な要件】活動時間（平日は1日2h程度以内、休日は1日3h程度以内）／休養日（週2日以上、休日のみ活動の場合は土日どちらか）／低廉な参加費／指導体制（日本版DBS活用を含めた不適切行為の防止徹底、指導者研修・登録等）／安全確保／学校等との連携

地域展開の円滑な推進に当たっての対応
- **推進体制**：国としての取組方針の提示・地方公共団体への支援・周知広報等／都道府県のリーダーシップ／市区町村等が改革の責任主体／専門部署の設置・コーディネーターの配置／生徒が所属する中学校等との連携／関係団体等・大学・民間企業との連携等
- **各種課題への対応**：①運営団体・実施主体の体制整備等　②指導者の確保・育成　③活動場所の確保(学校施設の有効活用等)　④移動手段の確保　⑤生徒の安全確保　⑥障害のある生徒の活動機会の確保　※６項目について具体的な取組内容等を整理
- **ニーズ反映・参画促進等**：生徒等のニーズの把握・反映／地域クラブ活動への参加促進のための情報提供等（体験会の開催、入学説明会等でのオリエンテーション、ポータルサイトなどによる一元的な情報提供等）／生徒のクラブ運営等への参画（生徒同士の話し合いなど）

部活動の在り方
- 適切な運営のための体制整備（部活動に係る方針策定、部活動指導員等の配置や合同部活動の実施、勤務時間管理・業務改善等）
- 適切な指導及び安全・安心の確保（暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の根絶、事案発生時の迅速な対応・再発防止、過度な練習等の防止等）
- 適切な活動時間・休養日等の設定　● 生徒のニーズを踏まえたスポーツ・文化芸術環境の整備

大会等の在り方
- 生徒の参加機会確保（地域クラブ活動等の参加促進等）　● 大会等への引率や運営に係る体制整備（教師以外の関係者の参画促進等）
- 生徒の安全確保（熱中症対策等）　● 大会等の在り方の見直し（多様なニーズを踏まえた大会等の開催等）

関連制度
従事を希望する教師等の兼職兼業の円滑化（中学校教師だけでなく小学校教師（体育専科等）や高校・特別支援学校の教師等を含む）
教師の人事・採用での部活動指導力の評価における留意、高校入試における取扱いなど

2

地域クラブ活動に関する認定制度の概要

認定スキーム

- **国が示す認定要件等に基づき、市区町村等が認定**を実施
- **地域クラブ側からの申請**を受け、**市区町村等において審査の上、認定**
  認定後も、市区町村等が適切に指導助言等を実施

※国が示す認定要件に沿って、**市区町村等が自ら運営する地域クラブ活動**については、**認定したものとみなす**
※**認定の有効期間**は、**最長３年間の範囲内**で、地域の実情に応じて**市区町村等において設定**

認定要件

事項	主な内容
①活動の目的・理念	・学校部活動が担ってきた教育的意義の継承・発展、生徒の豊かで幅広い活動機会の保障（選抜等を行わず、参加を希望する生徒を幅広く受け入れることを含む）
②活動時間・休養日	・平日は１日２時間程度以内、休日は１日３時間程度以内 ・週２日以上の休養日を設定（休日のみ活動する場合は、原則、土日どちらかを休養日に設定）
③参加費等	・活動の維持・運営に必要な範囲で可能な限り低廉な参加費等を設定（国が示す目安を踏まえる）
④指導体制	・暴力・暴言・ハラスメント・いじめ等の不適切行為の防止徹底（日本版DBSの活用を含む） ・市区町村等が定める研修を受講し、登録された指導者等による指導（※） （※）「認定地域クラブ活動指導者」登録制度を構築（研修メニュー例、登録要件・手続等、不適切行為への対応等について規定）
⑤安全確保	・生徒の健康状態や気温等を考慮した適切な活動、施設・設備等の点検、緊急時の連絡体制整備 ・怪我等を補償する保険及び個人賠償責任保険への加入（参加者及び指導者等）
⑥運営体制	・関係法令の遵守、規約等の作成・公表、公正かつ適切な会計処理、営利を主目的とせずに運営
⑦学校等との連携	・活動方針やスケジュール、生徒の活動状況等に関する情報共有

（※）円滑な実施の観点から、一定期間の経過措置を設ける（原則として令和８年度末まで）

想定される認定の効果（メリット）

①**生徒・保護者等に対する市区町村等による情報提供**
②**地域クラブ活動の運営等への公的支援**（財政支援、学校施設等の優先利用・使用料減免、学校備品等の活用等）
③地域クラブ活動への従事を希望する**教師等の兼職兼業**　④生徒の**大会・コンクールへの円滑な参加**

3

県立美術館事業

本県ゆかりの芸術家の優れた作品を収集・展示するとともに、県内外の優れた芸術活動を紹介する展覧会をはじめ、様々な関連イベントや教育普及など、県民の幅広い文化活動の発展に寄与することを目的とした様々な取組を展開している。

1　展覧会

《事業の趣旨・目的》

「岡山の美術展」（常設展示）では、当館のコレクションを活用した展示により、県民の誇るべき財産を発信するとともに、「特別展」（企画展示）では、古代から現代に至る様々な時代や地域の多様なジャンルにおける特色のある優れた作家や作品を紹介している。

特に今年度は、瀬戸内国際芸術祭 2025 の広域連携事業である「瀬戸芸美術館連携プロジェクト」（岡山・香川・兵庫３県の８つの美術館が連携）に参画し、本県出身でＩ氏賞受賞作家の平子雄一氏の個展を開催した。

《令和７年度実績》

①　岡山の美術展（常設展示）

展　覧　会　名	期　間	観覧者数(人)
第１期 特別展示「ときめきのボタンたち」ほか	4/11 ～ 5/18	9,119
第２期 特集「細工物の世界展」ほか	5/27 ～ 6/29	1,981
第３期 特集「戦後80年を迎えて」ほか	7/ 4 ～ 8/24	6,355
第４期 特別展示「長尾紀壽展」ほか	9/20 ～11/ 3	7,642
第５期 特別展示「伝統工芸諸工芸展」ほか	11/20 ～12/26	3,940
計		29,037

②　特別展（企画展示）

展　覧　会　名	期　間	観覧者数(人)
ベル・エポック美しき時代展	4/11 ～ 5/18	8,893
宮城県美術館コレクション展	7/ 4 ～ 8/24	6,266
第76回岡山県美術展覧会	9/4～7, 9/11～14	4,664
瀬戸芸美術館連携プロジェクト 平子雄一展	9/16 ～ 11/ 9	13,264
第72回日本伝統工芸展岡山展	11/13 ～ 11/30	6,374
美と祈り 近現代日本美術に見るキリスト教展	1/ 9～ 3/ 1	開催中
Hello kitty展	3/19 ～ 5/10	開催予定
計		39,461

〈参考〉令和８年度 特別展（企画展示）＊予定

展覧会名（仮称）	期　間
Hello Kitty展	3/19 ～ 5/10
鹿子木孟郎展	5/22 ～ 7/ 5
サーカス展	8/ 1 ～ 9/23
虫展	10/ 9 ～ 11/29
第73回日本伝統工芸展岡山展	11/12 ～ 11/29
第77回岡山県美術展覧会	1/8 ～ 1/18
オールド・ノリタケ＆オールド・大倉展	2/12 ～ 3/28

2　教育普及事業

《事業の趣旨・目的》

「博物館をあらゆる人に開放する最も有効な方法に関する勧告」（1960 年ユネスコの勧告）に基づき、「一人ひとりが文化的で豊かであること」を目指して、社会や市民（citizen）と美術館の接点を形成する活動を行う。

《令和７年度実績》

○　こんにちは美術館事業

地域に開かれた社会教育施設として、子どもから大人まで多様な人々が学び、体験し、芸術や文化への理解を深められるよう、誰もが楽しむことができる「交流の場」としての教育普及事業の実施に努めた。

- **ワークショップ**（対話型鑑賞等）
- **美術のタベ**（夜間開館日に学芸員による講座開催）

平子雄一展では毎週土曜日にボランティアによる対話型鑑賞を実施

○　学校と美術館の連携事業

専門家による指導や本物の作品との出会いを通じて、児童生徒の豊かな感性や創造性を育み、芸術や文化への理解を深める重要な学びの場となるよう、学校と連携した様々な事業に取り組んだ。

- **みんなの参観日事業（４校参加）**
- **学校団体観覧等の受入れ**
- **学校出前授業・出前研修**

12/21～1/18　「みんなの参観日」屋内広場で展示

3　県立美術館魅力アップ事業

《事業の趣旨・目的》

県民・観光客への広報の充実、若い世代への来館を促進する取組により、美術館が有する多様な魅力を積極的に発信する。

《令和７年度実績》

・「Drawing Melodies　～響き合う表現～2025」
県内の中・高校生等が平子雄一展をテーマに生け花パフォーマンスや管弦楽ライブ等を行い、若者を中心に多くの来館者の心を惹きつけた。

花生けライブパフォーマンス(11/8)

・「ミュージアムコンサート 歴史から見る音楽と祈り」
「美と祈り展」に合わせ、ヴァイオリニストらが「祈りと音楽」をテーマに曲を選定・演奏し、来場者の心を魅了した。

ミュージアムコンサート(1/24)

・ボランティア活動（ボランティア　約100名委嘱）

《主な刊行物》

・美術館年報
・美術館ニュース（年４回）
・展覧会図録
・岡山県立美術館紀要

４　岡山県新進美術家育成「Ｉ氏賞」事業（事務局：県立美術館）

《事業の趣旨・目的》

将来が期待される岡山県にゆかりのある若手美術家に「Ｉ氏賞」を授与し、創作活動の支援を行う。

《令和７年度実績》

令和４年度から事業周期を１年から２年に変更し、１年目に賞の選考や贈呈式、２年目に受賞作家展を開催することとしている。今年度は、１月に選考作品展を開催して受賞者を決定し、３月下旬に贈呈式を行う予定。

1/13～25　Ｉ氏賞選考作品展

５　事業の評価

自己評価	常設展では、「ときめきのボタンたち」が若者を中心に好評を博すなど、昨年度を上回る来館者数があったものの、企画展では、想定来館者数自体が少ない中、ベル・エポック展や宮城県美展で来館者数が見込みを下回り厳しい状況にある。一方で、来館者アンケートによる満足度（４段階評価で「満足」以上の割合）では、当館主催の企画展では、いずれも概ね９割以上の満足度があり、多くの来館者にとって見応えのある内容であったと考えている。
今後の課題	一定の集客数を確保するためには、年間での展覧会計画に県民にとって魅力ある巡回展を組み込みながら、展覧会の魅力を分かりやすく、楽しく伝える工夫が必要である。展覧会毎に、明確な目的とターゲットを設定し、マスコミ等との協働やＳＮＳを活用した情報発信を効率的に行い、増加するインバウンドの取込みなどを含め、戦略的な集客対策を経営者視点で行っていくことが重要であると考えている。

おかやま文化振興ビジョン（2018-2028）2025改定版 体系図

基本方針	施策の方向性	重点施策
1 文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山	(1) 将来の地域文化の担い手育成	① 郷土の歴史や文化財に親しむ機会の充実 ② 学校教育における文化活動の充実 ③ 子どもや若者の文化活動の充実 ④ 教員や学生等を対象とした文化に関する研修の充実 ⑤ 芸術系専門学科を有する高校や大学との連携
	(2) 県民参加による新たな文化の創造	① 岡山県文化連盟の機能強化 ② 文化団体への活動支援 ③ アートマネジメントの推進 ④ 文化サポーターの育成 ⑤ 芸術家等の創造活動への支援
	(3) 県民の文化創造活動の振興	① 文化施設の利用促進・機能強化 ② 質の高い美術や舞台芸術等の鑑賞機会の提供 ③ 文化に関する情報提供の充実 ④ おかやま県民文化祭の充実
	(4) 障害のある人の文化芸術活動の推進	① 障害のある人の文化芸術活動の推進 ② 文化施設での字幕・音声案内サービスの提供等
2 文化が地域の元気を生み出す岡山	(1) 伝統文化の保存・継承・発展	① 民俗芸能・伝統工芸などの保存・継承・活用 ② 古代吉備文化遺産の保存・活用 ③ 郷土の誇る先人顕彰の推進 ④ ユネスコ無形文化遺産登録活動の支援
	(2) 文化の力を活用した地域の活性化	① 地域固有の文化資源の掘り起こし ② 文化による地域のイメージアップとにぎわい創出 ③ 国内外のアーティストの地域への受け入れ ④ 美しく魅力ある景観づくりの推進 ⑤ 歴史・自然を生かした豊かな「くらし文化」の振興 ⑥ 国際的なアートイベントとの連携
	(3) 地域資源としての文化の積極的な活用	① 繊維産業の振興 ② 観光産業の振興 ③ 文化財や歴史的建造物の観光振興等への活用 ④ 日本遺産の魅力発信
3 文化発信しながら交流を広げる岡山	(1) 文化による連携・交流の促進	① 文化ネットワークの形成 ② 国内文化交流の促進 ③ 国際文化交流の促進
	(2) 岡山からの文化発信	① 文化情報のデジタル化、データベース化による情報発信 ② ソーシャルメディア等の活用による魅力発信 ③ おかやま独自の文化発信

岡山県文化振興基本条例 文化振興の基本的視点

基本目標 人が文化をつくり、文化が人をつくる岡山

『おかやま文化振興ビジョン(2018-2028)2025改訂版』における成果指標の実績

【基本方針】

1　文化を伝承・創造し心豊かに生活できる岡山

指　　標　　名	平成29(2017)年度策定時の現況値	令和６(2024)年度改定時の現況値	令和10(2028)年度目標値	令和６(2024)年度末実績値	令和７(2025)年12月末実績値
文化施設利用者数	483,612人	402,730人	505,000人	590,924人	340,674人
（説明）県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館及び旧閑谷学校の利用者数					

【重点施策】

（１）将来の地域文化の担い手育成

指　　標　　名	平成29(2017)年度策定時の現況値	令和６(2024)年度改定時の現況値	令和10(2028)年度目標値	令和６(2024)年度末実績値	令和７(2025)年12月末実績値
学校行事で県立美術館を訪れた人数	3,661人	2,592人	2,600人	3,011人	1,380人
（説明）授業や部活動などの学校行事で県立美術館を訪れた人数					
子どもみらい塾講師派遣回数	406回	300回	530回	327回	293回
（説明）岡山県文化連盟が芸術・文化の指導者を講師として学校等に派遣した回数					
優れた芸術を鑑賞した学校数　《累計》	668校	1,614校	2,000校	1,702校	1,783校
（説明）県や国が実施するスクールコンサートや、青少年劇場、巡回公演事業等を開催した学校の累計					
アウトリーチ活動実施回数	39回	28回	29回	41回	20回
（説明）県立美術館、県立博物館、ルネスホールが実施したアウトリーチ活動の回数					

（２）県民参加による新たな文化の創造

指　　標　　名	平成29(2017)年度策定時の現況値	令和６(2024)年度改定時の現況値	令和10(2028)年度目標値	令和６(2024)年度末実績値	令和７(2025)年12月末実績値
おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数《累計》	―	714件	1,000件	763件	790件
（説明）おかやま文化芸術アソシエイツへの相談件数の累計					
県が実施するアートマネジメント講座修了者数　《累計》	69人	151人	220人	165人	165人
（説明）県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計					
県立美術館ボランティア数	89人	100人	110人	112人	111人
（説明）県立美術館に登録しているボランティア数					
岡山県美術展覧会への応募点数	3,296点	2,130点	3,300点	1,998点	1,793点
（説明）岡山県美術展覧会へ一般応募された作品（日本画、洋画、工芸、書道、写真、彫刻）の点数					

『おかやま文化振興ビジョン(2018-2028)2025改訂版』における成果指標の実績

（３）県民の文化創造活動の振興

指　　標　　名	平成29(2017)年度策定時の現況値	令和６(2024)年度改定時の現況値	令和10(2028)年度目標値	令和６(2024)年度末実績値	令和７(2025)年12月末実績値
文化施設利用者数【再掲】	483,612人	402,730人	505,000人	590,924人	340,674人
（説明）県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館及び旧閑谷学校の利用者数					
県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数	25,697件	83,993件	143,000件	145,381件	533,992件
（説明）県内文化団体・施設が持つ情報を集約・発信するホームページのアクセス数					
県民文化祭参加者数	370,978人	401,223人	215,000人	232,748人	119,700人
（説明）おかやま県民文化祭への総参加者数					
おかやま県民文化祭の主催・参加プログラム件数	―	174件	190件	173件	141件
（説明）おかやま県民文化祭への総参加者数					
文化芸術に関わった（自ら実践・直接鑑賞した）人の割合	―	―	45%	40.9%	令和８年７月公表予定
（説明）おかやま県民文化祭への総参加者数					

【基本方針】

２　文化が地域の元気を生み出す岡山

指　　標　　名	平成29(2017)年度策定時の現況値	令和６(2024)年度改定時の現況値	令和10(2028)年度目標値	令和６(2024)年度末実績値	令和７(2025)年12月末実績値
地域の特色や魅力を生かす取組を展開できるアートマネジメント人材の育成数　《累計》	69人	665人	950人	732人	732人
（説明）おかやま文化芸術アソシエイツが実施するアートマネジメント研修受講者数と県が実施するアートマネジメント人材を育成するための講座を修了した受講生の累計					

【重点施策】

（１）伝統文化の保存・継承・発展

指　　標　　名	平成29(2017)年度策定時の現況値	令和６(2024)年度改定時の現況値	令和10(2028)年度目標値	令和６(2024)年度末実績値	令和７(2025)年12月末実績値
日本伝統工芸展への応募点数	116点	52点	70点	56点	66点
（説明）日本伝統工芸展に県内在住者が応募した点数					
登録文化財の登録件数《累計》	275件	359件	419件	375件	383件
（説明）登録文化財の登録件数					

（２）文化の力を活用した地域の活性化

指　　標　　名	平成29(2017)年度策定時の現況値	令和６(2024)年度改定時の現況値	令和10(2028)年度目標値	令和６(2024)年度末実績値	令和７(2025)年12月末実績値
県民文化祭地域フェスティバル実行委員会への参加団体数	118団体	310団体	310団体	56団体	53団体
（説明）おかやま県民文化祭地域フェスティバル（備前・備中・美作）の実行委員会に参加した団体数					

『おかやま文化振興ビジョン(2018-2028)2025改訂版』における成果指標の実績

【基本方針】

3　文化発信しながら交流を広げる岡山

指　　標　　名	平成29(2017)年度 策定時の現況値	令和６(2024)年度 改定時の現況値	令和10(2028)年度 目標値	令和６(2024) 年度末 実績値	令和７(2025)年 12月末 実績値
文化施設ホームページアクセス件数	360,035件	1,438,303件	1,142,000件	1,761,714件	1,097,211件
（説明）県立美術館、天神山文化プラザ、ルネスホール、犬養木堂記念館、岡崎嘉平太記念館、県立博物館のホームページアクセス件数					

【重点施策】

（１）文化による連携・交流の促進

指　　標　　名	平成29(2017)年度 策定時の現況値	令和６(2024)年度 改定時の現況値	令和10(2028)年度 目標値	令和６(2024) 年度末 実績値	令和７(2025)年 12月末 実績値
文化に関わる人々のネットワークづくりのためのワークショップ等受講者数《累計》	—	1,088人	1,500人	1,145人	1,165人
（説明）おかやま文化芸術アソシエイツが実施する文化に関わる人々のネットワークづくりのためのレクチャー・ワークショップ受講者数の累計					
国民文化祭への派遣団体数	8団体	4団体	10団体	5団体	3団体
（説明）国民文化祭への派遣団体数					

（２）岡山からの文化発信

指　　標　　名	平成29(2017)年度 策定時の現況値	令和６(2024)年度 改定時の現況値	令和10(2028)年度 目標値	令和６(2024) 年度末 実績値	令和７(2025)年 12月末 実績値
県内文化団体･施設が持つ情報を集約･発信するホームページのアクセス数【再掲】	25,697件	83,993件	143,000件	145,381件	533,992件
（説明）県内の文化施設や文化イベント等を紹介するホームページ「岡山文化情報」」へのアクセス数					
県立美術館インスタグラムのフォロワー数《累計》	—	4,076人	7,000人	6,544人	7,289人
（説明）県立美術館インスタグラムのフォロワー数の合計					

【参考指標】

指　　標　　名	平成29(2017)年度 策定時の現況値	令和６(2024)年度 改定時の現況値	令和10(2028)年度 目標値	令和６(2024) 年度末 実績値	令和７(2025)年 12月末 実績値
外国人延べ宿泊者数	145,628人	331,710人	620,000人	514,000人	令和８年６月 公表予定
（説明）観光庁「宿泊旅行統計調査」（暦年調査）による外国人延べ宿泊者数					
観光入込客数	1,433万人	1,565万人	1,759万人	1,626万人	令和８年７月 公表予定
（説明）観光庁「観光入込客統計」（暦年調査）による観光入込客数					
後楽園の入園者数	744,039人	781,575人	900,000人	781,525人	646,462人
（説明）後楽園の入園者数					

別添１

重　点　事　業　調　書

担当部局・課名	環境文化部文化振興課			
重点事業の名称	**中四国文化の集い岡山大会開催事業**			
第４次生き活きプラン	重点戦略	Ⅳ　安心で豊かさが実感できる地域の創造	戦略プログラム	９　生きがい・元気づくり支援プログラム

現状、課題・必要性

【現状】

・中四国９県の文化交流を通じ、文化活動の発表機会の拡充と文化意識の一層の高揚を図るとともに、圏域の歴史と風土から生まれた伝統文化を受け継ぎながら、新たな文化を創造することを目的として、中四国９県の合議により、平成４年度から毎年、各県持ち回りで「中四国文化の集い」を開催している。

・岡山県では、これまで平成９年度、21 年度、22 年度(国民文化祭に合わせて実施)に開催されており、４巡目の開催を令和８年度に予定している。

・令和８年度で 34 回目となる中四国文化の集いであるが、近年は、伝統芸能、郷土芸能を主としたテーマでの開催が続いている。

【課題・必要性】

・少子・高齢化により伝統芸能・郷土芸能の分野の継承・担い手育成が課題となっている。

・本県の文化芸術を継承・発展させていくため、若年層が文化芸術活動に参加しやすい環境づくりや機会の創出が不可欠な状況である。

・伝統芸能・郷土芸能の担い手育成が必要となるなかで、岡山県で県内外の団体の披露の場を提供し、出演団体同士の交流を図ることで、新たな担い手を育て、今後の文化振興につなげる必要がある。

・鑑賞機会の少ない中四国の伝統文化について、広く県民に機会を提供することで、幅広い世代に伝統文化・郷土芸能に興味を持ってもらう必要がある。

事業内容

1　新規 中四国文化の集い岡山大会開催事業《5,463 千円》　終期：R８

令和８年度中四国文化の集いを岡山県内で開催する。

・開催のための事前広報や前日リハーサル、当日のイベント運営までを業務委託する。

イベント実施委託　3,720 千円

広報業務委託　　1,743 千円

事業効果

・伝統芸能・郷土芸能の担い手育成が必要となる中で、岡山県で県内外の団体の披露の場を提供し、出演団体同士の交流を図ることで、新たな担い手を育て、今後の文化振興につながる。

・鑑賞機会の少ない中四国の伝統文化について、広く県民に機会を提供することで、幅広い世代に伝統文化・郷土芸能に興味を持ってもらうことができる。

事業目標

事業	生き活き指標　等	現状値	目標値	差
1	生き活き　文化芸術に関わった(自ら実践・直接鑑賞した)人の割合	40.9%(R6)	45.0%(R10)	**4.1** ﾎﾟｲﾝﾄ

事業費の見積もり

区　分		R7 予算額	R8 予算要求額	R9 見込額	R10 見込額	R11 以降見込額
事業費(単位：千円)			5,463			
財源内訳	国　庫					
	起　債					
	その他特定財源					
	一般財源		5,463			

第３４回中四国文化の集い岡山県大会の開催

【１．趣旨】

中四国９県の文化交流を通じ、文化活動の発表機会の拡充と文化意識の一層の高揚を図るとともに、圏域の歴史と風土から生まれた伝統文化を受け継ぎながら、新たな文化を創造することを目的として、中四国９県の合議により、平成４年度から毎年、各県持ち回りで「中四国文化の集い」を開催している。

【２．事業の必要性・目的】

岡山県では、これまで平成９年度、２１年度、２２年度(国民文化祭に合わせて実施)に開催されており、４巡目の開催を令和８年度に予定している。

近年の開催テーマが伝統芸能、郷土芸能が主となっており、少子・高齢化によりこういった分野の継承が課題となっている中、岡山県で県内外の団体の披露の場を提供し、出演団体同士の交流を図ることで、新たな担い手を育て、今後の文化振興につなげる。

【３．開催概要】

開催日：令和８年１０月２４日(土)　リハーサル
　　令和８年１０月２５日(日)　公演
会　場：岡山芸術創造劇場ハレノワ中ホール(８０７席)
入場料：無料
出　演：各県１団体、開催県２団体の計１０団体

【４．事業費】

委託料：５，４６３千円

【５．直近の開催県】

Ｒ４　高知県
　　高知県立県民文化ホール(R4.10.10)
Ｒ５　広島県
　　上野学園ホール(R5.10,8)
Ｒ６　島根県
　　島根県民会館大ホール(R6.11.4)
Ｒ７　香川県
　　レクザムホール(R7.11.23)

令和８年度　主要事業　予算要求額

○ 文化振興課

（単位：千円）

事　項　名	Ｒ７	Ｒ８	増減
芸術文化活動費	174,259	117,163	△ 57,096

主な事業と当該予算の増	Ｒ７	Ｒ８	増減
１　おかやま県民文化祭開催	42,096	47,009	4,913
（１）おかやま県民文化祭開催	39,096	39,096	0
（２）岡山県美術展覧会	3,000	7,913	4,913
２　オーケストラの育成と音楽文化の振興	3,190	3,190	0
３　文化連盟負担金	1,000	1,000	0
４　おかやま子どもみらい塾事業費	4,580	4,580	0
５　文化交流事業	340	5,803	5,463
（１）中四国文化の集い派遣事業	340	340	0
新（２）中四国文化の集い岡山大会開催事業	0	5,463	5,463
６　岡山県新進美術家育成支援事業	13,214	10,004	△ 3,210
７　岡山県新進美術家育成支援基金積立金	10,045	10,551	506
８　岡山県「内田百閒文学賞」	4,151	4,151	0
９　文化芸術で「地域の新たな魅力創出」推進事業	95,643	30,875	△ 71,776
（１）美作三湯芸術温度の開催	19,864	0	△ 19,864
（２）岡山芸術交流２０２５	50,000	0	△ 50,000
（３）アートプロジェクトおかやま推進事業	20,318	18,406	△ 1,912
（４）おかやま文化芸術アソシエイツ事業	5,461	5,461	0
新（５）国際音楽交歓コンサート2026岡山公演	0	7,008	7,008

○ 県立美術館

（単位：千円）

事　項　名	Ｒ７	Ｒ８	増減
県立美術館事業費	73,330	64,565	△ 8,765

主な事業と当該予算の増減	Ｒ７	Ｒ８	増減
１　企画展事業費	62,067	60,823	△ 1,244
【Ｒ８特別展】			
（１）Hello Kitty展		17,760	
（２）鹿子木孟郎展		11,357	
（３）サーカス展		11,000	
（４）虫展		8,022	
（５）第73回日本伝統工芸展 岡山展		3,684	
（６）オールド・ノリタケ＆オールド・大倉展		9,000	
２　教育普及事業費	11,263	3,742	△ 7,521
（１）こんにちは美術館事業			
（２）博学・博社連携事業			
（３）若者×美術館～新たな楽しみ見つけた！事業			

別添２

フリーディスカッション　テーマ

文化芸術による地域づくり

【関係する県事業】

○おかやま県民文化祭開催

県民との協働による文化の力を活用した地域づくりを推進し、将来の芸術文化の担い手育成が促進されるよう、県民総参加で文化の祭典を開催する。

○美作三湯芸術温度 2025 の開催

美作三湯（湯原、奥津、湯郷）の宿泊施設等にアーティストを招き、各旅館の特色を踏まえた作品の制作・展示を行うことにより、県民へ文化芸術の鑑賞機会を提供するとともに、文化の力を活用した地域の活性化を図る。

○アートマネジメント人材育成・地域課題解決支援事業

県民が自ら主催者となってアートイベントを企画し、県内各地で様々なイベントが継続的に開催できるよう、文化芸術を活用したイベントの企画・運営ができる人材を育成するとともに、文化芸術が地域貢献に果たしうる可能性を広げる修了生による自主企画事業等を支援する。

○文化芸術の力を活用した地域のにぎわい創出事業

国内外のアーティストを起用し、地域住民や文化芸術団体等様々な主体との連携・協働により、地域資源を活用したアーティスト・イン・レジデンスや企画展・公演などを実施する。

また、取組の中に、子どもや若者を対象としたイベント等を盛り込むことで、子どもや若者が身近な地域で、文化芸術に触れる機会を創出する。

フリーディスカッションは、前向きな議論や様々な情報交換の場として実施するものです。将来を踏まえた中長期的な観点でご発言いただくことを基本とし、必ずしも結論を出すことを目的とするものではありません。